

令和3年第1回（8月）佐渡市高校生議会会議録【要約】

令和3年8月5日（木曜日）

議事日程（第1号）

令和3年8月5日（木）午後3時開議

第1 代表質問

出席議員（24名）

○は代表質問者

羽茂高等学校（9名）

チーム生徒会

1 猪股昇悟君 2 加藤大和君
3 ○須田大智君

チーム石井

4 渡部倅賀君 5 渡部里菜君
6 ○城家遙君 7 佐藤那南君
8 作澤莉花君 9 葛野春花君

佐渡総合高等学校（14名）

1年C組

10 ○仲村拓真君 11 北澤麗花君
12 本間慧君 13 佐藤天音君
14 山崎和奏君 15 内田真心君

1年A組

16 ○富井伊織君 17 宮川柚奈君
18 引野結愛君 19 富永美華君
20 野口真奈君

1年B組

21 ○榎彩華君 22 佐々木麻衣君
23 大蔵歩夢君

佐渡市議会（1名）

24 佐藤孝君（議長）

地方自治法第121条の規定により出席した者

市長	渡辺竜五君	副市長	伊貝秀一君
教育長	新発田靖君	総合政策監	日坂仁君
総務課長	中川宏君	企画課長	猪股雄司君
財政課長	平山栄祐君	子ども若者課長	市橋法子君
環境対策課 課長補佐	金子高敏君	交通政策課長	十二毅志君
建設課 課長補佐	佐々木雅彦君	教育総務課長	坂田和三君
学校教育 課長	森和人君	社会教育課長	市橋秀紀君

事務局職員出席者

事務局長	山本雅明君	事務局次長	梅本五輪生君
議事調査 係長	数馬慎司君	庶務係長	松塚洋樹君

令和3年第1回（8月）佐渡市高校生議会（8月5日）

＜今、私たちが考える佐渡の未来＞

順	内 容 (要 約)	質問者 答弁者
1	<p>【質 問】</p> <p>私たちのグループでは、佐渡の人口減少に注目して佐渡の未来を考えてみました。私たちは、この人口減少を食い止めるために子育て世代を対象にした子育て支援サービスがあるかを調べてみました。佐渡市のホームページを確認しますと、子育て世代生活支援特別給付金や子どもの医療費助成等の数多くの支援制度があることや島内に9つの子育て支援センターがあり、非常に子育てしやすい環境にあると思います。また、先日、本校2年生の授業では、実際に子育てをされている方や子育て支援団体の方から直接お話を聞く機会もありました。</p> <p>そこで、お尋ねいたします。</p> <p>1 これらの制度を島外の親世代の方々に知ってもらえば、佐渡に移住する親子が増えるのではと考えますが、これらの取組みや子育てしやすい環境であることを積極的に伝えるため、どのようなPRが行われているのでしょうか？</p> <p>2 佐渡で子育てをされている方々からは、佐渡は自然が豊かで良いが、雨や雪など天候が悪い時に子どもと遊べる場所がないという意見を聞きました。そこで、天候が悪くても子どもが遊べる屋内遊技場を佐渡市で作ることはできないでしょうか？</p> <p>運営方法や利用料金などの課題もあると思いますが、子ども達や子育て世代の交流の場が増えることで、佐渡市が今まで以上に子育てしやすい環境になるのではないかと考えます。</p> <p>以上が私たちのグループの質問と意見です。</p> <p>子どもを含む島の人々が、住み続けられる佐渡について考えることは、SDGsの17の目標のうち、11番目の持続可能なまちづくりに直結すると思います。これからの佐渡の未来に向け、市の考えやご意見をお聞かせください。よろしくお願いいたします。</p>	羽茂高校 チーム生徒会 須田 大智 (3年生)
	<p>【答 弁】</p> <p>はじめに移住者を含めた子育てしやすい環境に関するPR、情報発信についてお答えします。</p> <p>人口減少に伴う地域課題を解決するためには、移住者を積極的に受け入れ、若者や子育て世代が安心して佐渡で暮らし、働ける環境を一体的に整備し、持続可能な島づくりを目指して取り組むことが重要であると考えます。</p> <p>そのため、今年4月に「移住交流推進課」を設置し、一定期間の島の暮らしが体験できるお試し住宅や空き家改修などの環境整備に加え、新たな雇用の創出や設備投資、研究開発、人材確保につなげるため、佐渡で起業する若者への支援を行うなど、移住者の受入体勢の整備に取り組んでいるところです。</p> <p>ご質問いただいた島外の方々への子育て支援制度のPRについては、現在、佐渡市のホームページ内に移住者向けの特設サイトを開設し、この中で、市独自の副食費（おやつ・おかず代）の無償化や子ども医療費の助成などの子育てに関する情報を掲載し、佐渡市が子育てしやすい環境であることを発信しています。</p> <p>また、今年3月に市のホームページをリニューアルしましたが、子育て支援センターの外観や施設内の写真を掲載し、はじめての方でも気軽に利用できるような工夫をしています。</p>	渡辺市長

1	<p>今後も、多子世帯の出産・子育てを応援するための成長祝金など、市独自の子育て支援制度や子ども向けイベントなどの情報を子育て世代に広く利用されているSNSツールも活用し、より分かりやすい情報発信に努めてまいります。</p> <p>次に、雨天時などの子どもの遊び場、屋内遊技場についてお答えします。 屋内遊戯場については、昨年10月から佐和田児童クラブの遊戯室を、児童クラブが利用していない日曜・祝日に限り開放しており、1日平均で約90人の方からご利用いただいております。</p> <p>また、遊び場ではありませんが、子育て世代の交流や気軽に相談できる場所として、さわた子育て支援センターの日曜・祝日の開所を検討しています。</p> <p>これまでも新たな遊び場が欲しいという要望をいただいておりますので、例えば、グラウンド機能のある真野のいぶき21など、稼動していない時期の公共施設や市内の遊休施設の利用など、今後の人口減少社会も踏まえて、既存の施設を有効に活用していきたいと考えています。</p>	渡辺市長
2	<p>【質問】 私たちのグループでは、授業で学んだSDGs 17のゴールのうち、私たちの暮らしに欠かせない「7番の持続可能なエネルギー」に着目して、佐渡の未来を考えてみました。</p> <p>現在、佐渡の主な発電方法は火力発電です。</p> <p>しかし、二酸化炭素排出による地球温暖化問題や燃料の枯渇、高騰などにより、将来的には火力発電の継続が難しくなるのではないかと考えました。</p> <p>そこで、お尋ねいたします。</p> <p>1 今後も火力発電を継続していくのでしょうか？ それとも、再生可能エネルギーによる発電方法を取り入れていこうとお考えでしょうか？</p> <p>2 私は再生可能エネルギーの一つである太陽光発電を使用することが良いと考えました。</p> <p>大規模なメガソーラー発電所では、佐渡の景観を損なってしまう恐れがあるため、各家庭の屋根にソーラーパネルを設置することで家庭内の電力の自給自足ができるのではないかと考えました。</p> <p>また、冬の日照不足に備え、風力発電も併用し、できる限り再生可能エネルギーを活用した発電方法に転換した方が良いのではないかと考えましたが、いかがでしょうか？</p> <p>以上が私たちのグループの質問と提案です。</p> <p>これからは、節電や省エネなどについても理解を深め、私たちにできることをできることから実践したいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>	羽茂高校 チーム石井 城家 遙 (1年生)
	<p>【答弁】 はじめに、火力発電の継続、再生可能エネルギーの導入についてお答えします。気候変動問題への対応は全世界的に取り組むものであり、離島の佐渡市も例外ではない一方、市内における産業・家庭など様々な場面での電力は、ほぼ火力発電所より安定供給され恩恵を受けていることから、再エネ導入にあたっては段階的に進める必要があります。</p> <p>現在佐渡市では、新潟県やエネルギー企業等とともに「新潟県自然エネルギーの島構想」の策定を進めているところです。この島構想では、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指して、短期的・中長期的に取り組む事項や課題整理を進めているところです。</p> <p>先般再エネ導入計画策定に係わる約1千万円の環境省補助事業に申請し、採択されたところであり具体化を進めていくところですが、このような取り組みは、気候変動対策といった環境面だけではなく、化石燃料への依存度を低減して島外への資金流出を抑制するとともに、災害時のエネルギー供給や新たな地域産業・雇用創出など地域課題の解決にも繋がると考えています。</p>	日坂 総合政策監

2	<p>ただし、再生可能エネルギーは、天候等に応じた出力変動が大きいことや設備利用率が季節に依存することから安定供給のためには、再エネ導入の拡大に併せて蓄電池や水電解による水素変換などの方策も検討する必要があります。先ほどの島構想では、佐渡の豊富な潜在能力を活かせるよう、太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーの導入拡大を図りながら、将来的には洋上風力発電とその余剰電力を活用した水素の製造・貯蔵・利活用について検討しています。</p> <p>なお、各家庭への太陽光パネル設置もゼロカーボン社会構築に向けて重要でありますが、排出源は産業・業務・運輸と多岐にわたり、これらの方策も考える必要があります。現在、コスト面で優れている太陽光発電に関しては、災害発生時の防災機能として必要な市役所庁舎や駐車場などの公共施設への設置や、一般家庭でのソーラーパネルなどの太陽光発電設備と蓄電池を組み合わせたモデル事業など民間事業者等とともに国の支援策活用も含め検討しているところです。</p>	日坂 総合政策監
	<p>【質問】</p> <p>私たちはSDGsの授業を通じて世界や日本の困っているところや良いところ、これからの佐渡に必要な事は何かを学び、ゴール3番の健康・福祉と11番のまちづくりに注目しました。</p> <p>1 佐渡で暮らしているご老人の方の生活を見ると、高い段差にのぼる事ができない方など、今の生活が不便そうに見えたので、市には、ご老人でも快適に暮らせるように高い段差を減らし、ご老人の方が安心して暮らせるようにしてほしいです。</p> <p>私たちは、高校生活の中で困っている方を見かけたらどのように行動すればよいか、どうしたらすべての人が快適に暮らせるようになるか考えて活動したいと思います。</p> <p>2 また、若者も住みやすく、楽しめるまちにするには、バスの本数が少ないことや料金がなくて不便なところがあるので改善してほしいと思いますが、市ではどのような取組みが行われているのでしょうか？</p> <p>私たちの高校生活の中では、たくさんバスに乗る事になるのでお願いします。</p> <p>以上が私たち1年C組の質問と要望になります。</p> <p>私たちは、高校生活の中でボランティア活動などを通じて佐渡の資源を大切に、まちづくりについて考えていきたいと思っています。</p>	佐渡総合高校 1年C組 仲村 拓真 (1年生)
3	<p>【答弁】</p> <p>高齢者が安心して暮らせるまちづくりについてお答えいたします。</p> <p>佐渡市としましても、高齢化が進む中で、高齢者のみならず、すべての市民が、安全安心に暮らしていけるまちづくりを進めているところです。</p> <p>新規インフラ整備をする場合には、施設管理者として、段差の解消などバリアフリー化に配慮した計画を策定し、また既存施設についても修繕等により安全安心な施設に向けて順次整備をしているところであります。</p> <p>特に現在の市役所の本庁舎については、エレベーターもなく、高齢者や障害のある方にご不便をおかけしていますので、令和5年度中に完成予定の市役所の新庁舎では、バリアフリー化や再生可能エネルギーを活用した防災拠点として、市民の皆様にご利用しやすい庁舎として整備します。</p> <p>しかしながら、佐渡には多くの施設があり、財源の確保等から、なかなか予定どおり進まない現状もあり、地域の要望、危険性、優先度を総合的に判断しながら、順次進めているところです。</p> <p>今後も、高齢者も含めた全ての市民が、快適に生き生きと暮らせるまちづくりを目指し、取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>また、本日の高校生議員のみなさんをはじめ、高校生のみなさんにおいては、更なる自助、共助の意識の向上、人とのつながり、地域との関わりをもって、共に安心して暮らせる島づくりの実現に向けて協力していただけるとありがたいと考えております。</p>	伊貝副市長

3	<p>次に路線バスに関する質問にお答えします。</p> <p>高齢者や運転免許を持たない人が便利に生活していくために、地域の公共交通を充実させていく必要があると考えています。</p> <p>まず、バス料金に関しては、学生や高齢者、障がいのある方を対象に、通常運賃よりも安く利用できるサービスに取り組んでいます。</p> <p>学生の皆さんには、「学生ワイドフリー定期券」を販売しています。この定期券は、月額1万2千円の定額で全線乗り放題となり、従来の学割定期券より片道運賃が330円を超える場合は割引率が高く、例えば、片道運賃が500円の場合、従来の学割が1ヵ月1万8千円のところ、学生ワイドフリー定期券は1万2千円と月額6千円も安くなっています。乗車区間と乗車回数に制限も無いことから、お得な定期券となっており販売実績も増えている状況です。</p> <p>また、70歳以上の高齢者及び障がいのある方には、1乗車200円でバスを利用できる運賃割引を実施しています。</p> <p>これら利便性を高める一方で、どのようにして公共交通を維持していけば良いかも考えていく必要があります。</p> <p>市では島内の路線バスの運行を維持するため、国や県の補助金も活用しながら、路線バスの運行事業者に対して、毎年約2億5千万円もの補助金を支出しています。</p> <p>また、路線バスの利用が少ない地域では、家の近くまで送迎する予約制の乗合バス、デマンドバスと言いますが、これを導入することで、効率的な運行が行えないか実証調査に取り組んでいるところです。</p> <p>公共交通は利用者が少ないと維持することができませんので、バスを一番利用する高校生を含め、地域の皆さんが利用しやすい有効な交通手段は何かということと一緒に考えていきたいと思ひます。</p>	伊貝副市長
4	<p>【質問】</p> <p>佐渡では高齢化がどんどん進んでいます。このままでは佐渡の伝統文化や風習などを継続しづらくなってしまいます。</p> <p>そこで私たちは、やはり島外、県外から若い人たちを呼んで移住者を増やさなければならぬと思ひました。そのために有効と考えたのは「佐渡の魅力をもっと発信、アピールする」ということです。</p> <p>今まで総合的な学習の時間などで佐渡中をまわって魅力をたくさん見てきましたが、授業で教えてもらったから気づいた魅力がかなり多くありました。「こんなところに、こんな施設があったのか」とか、「こういうところがあったのは知っていたけど、こんな設備があったのか」など、いろんなことに気づかされました。</p> <p>1 島外、県外の人にアピールするのも良いけれど、まずは、佐渡市民にアピールして、故郷の魅力を知ってもらって、市民一人ひとりの意識の向上をすれば「自分たちから発信していこう！」と自らアピールしたくなると思ひますが、いかがでしょうか？</p> <p>まずは自らの故郷について知識を深め、興味を持つことで島全体の意識が高まり、SDGs 11番の「住み続けられるまちづくり」に近づくのではないのでしょうか。</p> <p>2 また、現在市では、島外や県外の人にどのような方法で佐渡の魅力を発信しているか教えてください。</p> <p>3 最後に、佐渡市民に向けて佐渡の自然、伝統文化や風習などを伝えるような取り組みはされているのでしょうか。されているようでしたらその内容について教えていただきたいです。</p> <p>以上が私たち1年A組の提案と質問です。</p> <p>今の佐渡は魅力がいっぱいなのに知らない人が多いのはもったいないと思ひます。是非、積極的に発信、アピールしていただきたいです。ありがとうございました。</p>	佐渡総合高校 1年A組 富井 伊織 (1年生)

4	<p>【答 弁】 佐渡の魅力の情報発信についてお答えします。 地域にあるもの、ないものを知り、地域にあるその魅力を地元の方が誇りに思い、伝えていくことが地域おこしの成功を産み出すための重要なポイントになると考えます。</p> <p>高校生議員のご指摘のとおり、市民一人ひとりが、自身の住む地域の魅力を知り、発信していくことがとても大事であります。</p> <p>詳細はこの後、教育長から説明していただきますが、佐渡には、「佐渡学」という言葉があります。佐渡の自然、歴史文化を学ぶことで、故郷・佐渡の魅力を知り、佐渡を元気にすることが目的の一つです。佐渡についてしっかりと学び、市民一人ひとりが、観光ガイドの一役を担えれば大変すばらしいと思います。</p> <p>佐渡は世界遺産登録を目指す佐渡金銀山遺跡群をはじめ、認定から10周年を迎えるジラス・世界農業遺産やトキ、自然、文化・歴史など多くの素晴らしい魅力が存在する島です。</p> <p>近年では島の大自然を生かしたトレッキングやシーカヤック体験なども人気がありますし、能や鬼太鼓などの地域に根付いた伝統芸能のほか、米、果物、海産物など豊富で新鮮な島の食材と、それを生かした食も魅力の一つです。</p> <p>これらの佐渡の魅力を島内外へ発信する方法といたしましては、主に市のホームページをはじめ、フェイスブックなどのSNSを活用していますが、多くの方にシェアしていただけるよう魅せ方・発信の仕方などの工夫に努めています。また、佐渡出身者やさどまる倶楽部といった佐渡のファンの方々を通じた情報発信や、旅行会社がつくる佐渡への旅行商品を宣伝していただくことも佐渡の魅力を発信する一つと考えています。</p> <p>そして、これから進学や就職で佐渡を離れる方々が新たな魅力の発信者としてご活躍いただければありがたいと思います。</p>	中川総務課長
	<p>【答 弁】 佐渡の自然、伝統文化、風習などを伝える取組みについてお答えいたします。</p> <p>佐渡市教育委員会では、教育委員会の最上位計画となる佐渡市教育大綱を定め、その基本方針の一つとして、「佐渡を知り、愛し、誇りとし、社会的自立を目指す人づくりの推進」を掲げています。</p> <p>先ほど総務課長から説明のあった「佐渡学」は、この基本方針を目指す上で、特に佐渡の自然、歴史文化を学ぶための柱となるととても重要なものです。</p> <p>「佐渡学」の具体的な取組みとして、佐渡学センターでは、子どもたちに自分たちが住んでいる地域の自然や伝統文化を知ってもらい、地域のプロフェッショナルに育ててもらおうことを目的に小学生を対象とした「ジュニア学芸員養成講座」を開催しています。これは、博物館内の探検や、野山でできる楽しい遊び、市の無形文化財に指定されている「無名異焼」のやきものづくりなどの体験を通して、意外と知らない身近なことを学ぶ取組みとなっています。</p> <p>また、佐渡博物館出前授業カリキュラムを策定し、佐渡の芸能や美術工芸などの地域学習や、小学校3年生を対象とした「むかしのくらし」、6年生を対象とした「佐渡の今昔」などの出前授業を行っています。各小中学校では、トキの野生復帰に向けた取組みや金銀山が栄えた頃の地域の姿、佐渡に伝承されている工芸や芸能など、佐渡の魅力を知り、郷土への誇りや愛着を育む取組みも行っていきます。</p> <p>海底の隆起によって誕生し、約3億年前の地層や様々な海岸地形を観察できる佐渡は、日本ジオパークに認定されていますが、ジオパーク推進室では、地域にある自然の魅力や価値を知り、大切にしながら楽しむ教育活動を行っています。総合学習や理科学習での出前授業やジオパーククラブなどの学校教育、市民講座や出前講座、地域説明会、PTA行事などの社会教育において、ジオパークを学ぶことにより、貴重な自然や文化が身の周りであることを伝える取組みを行っています。</p>	新発田教育長

4	<p>そのほか、民謡や郷土料理教室などの大人向けの公民館講座等を開設するとともに、7月には佐渡文化財団が佐渡島開発総合センターにおいて、国の重要無形民俗文化財に指定されている「佐渡の人形芝居」の上演会を開催するなどし、市民の方々へ貴重な文化を伝えています。</p> <p>なお、佐渡の魅力はまだまだ多くあり、それらを多くの人に知ってもらうため、今後も引き続き取り組んでまいります。</p>	新発田教育長
	<p>【質問】</p> <p>私たち1年B組では、SDGsのゴール14番の海の豊かさ、15番の森林や生態系などの陸の豊かさに注目し、佐渡の自然や環境について考えてみました。</p> <p>1 佐渡にはたくさん自然がありますが、その一方でゴミのポイ捨ても多い気がします。市長には島民や観光客がポイ捨てをしないように呼びかけてほしいです。</p> <p>2 例えば、ポイ捨てをされて実際に嫌な思いをした人に話をうかがってテレビや新聞などで島民に伝えたり、ポスターなどにしたりして観光客に伝えてみてはいかがでしょうか？</p> <p>私たちもポイ捨てをしないのはもちろん、している人を見かけたら注意してみたいです。</p> <p>また、私たちは、SDGsのゴール16番の平和と公正についても考えてみました。高齢者も若者も平和に暮らしていくためには、お互いがお互いに親切に接する必要があると思います。私は、高齢者の方から元気にあいさつをされるとうれしいですし、こちら元気にあいさつを返したくなります。きっと高齢者の方も若者にあいさつされるとうれしいはずですよ。</p> <p>3 このようにあいさつなどを通じて、若者も高齢者も親切にされるのはうれしいし、元気が出るので、私たちにできることはお互いに「親切」に接するというのではないかと思います。こうした積み重ねが平和につながるための一歩ではないでしょうか。いかがでしょうか？</p> <p>以上で私たち、1年B組からの発表を終わります。</p>	佐渡総合高校 1年B組 榎 彩華 (1年生)
5	<p>【答弁】</p> <p>ゴミのポイ捨てについてお答えします。</p> <p>これは、地球規模で考えないと解決できない問題ですが、例えば、海洋プラスチックごみによる環境汚染は国際的にも懸念され、海洋汚染は生態系に悪影響を与えます。人とトキが暮らす島、環境の島として佐渡の自然を守っていくため、市では、ゴミのポイ捨て等の防止対策として、不法投棄監視員を設置し、島内全域で見守り活動を行っています。</p> <p>また、各集落に呼びかけを行い、「佐渡市一斉清掃」を行っており、例年5,000人を超える多くの市民の皆様から参加をいただいています。昨年、今年は新型コロナウイルス感染防止のため、開催できませんでしたが、今後も取り組んでまいります。</p> <p>ゲーム感覚で行えるスポーツゴミ拾いや「佐渡市一斉清掃+ (プラス)」・「佐渡クリーンアップ大作戦」の環境美化活動も併せて実施し、「美しい島佐渡」を内外にPRしていきたいと考えています。</p> <p>テレビや新聞での周知につきましては、今月の「市報さど」で不法投棄防止の呼びかけを行います。また、市のケーブルテレビでも呼びかけを行いますので、ご覧いただきたいと思っております。</p> <p>観光客への呼びかけとしましては、スポーツゴミ拾いのほか、「佐渡を美しくする会」では、毎年「佐渡を美しく」をテーマにポスターと標語を募集し、最優秀作品は、市内の公共施設等に掲示しているところですが、「環境の島佐渡」イメージ向上のため、さらに取組みを進めてまいります。</p> <p>ポイ捨ての防止には、市民の皆様一人ひとりの心がけが何より大事であると考えておりますので、しっかりと周知啓発に取り組んでまいります。</p> <p>高校生議員の皆様にもこれらの取組みをSNSで発信するなど、世界を変えていくためにご協力をお願いします。</p>	渡辺市長

5	<p>挨拶、親切の積み重ねが重要であるというご提案についてお答えします。</p> <p>市政運営においては、市民の皆様から感謝と信頼される行政でなければなりません。そのためには、お互いがお互いを把握しながら、認め合い、ワンチームとなって理解し合えるコミュニケーションが重要であり、私自身コミュニケーションの基本は、「挨拶」にあると考えています。</p> <p>私たちは、朝起きてから夜眠るまでの間に、家族をはじめ、友だち、先生など、様々な方々と挨拶を交わしています。その挨拶には、相手の存在をしっかりと認め、思いやる気持ちがあるからこそできます。</p> <p>また、人に対し親切にすることも同様であり、相手を思いやる気持ちが形となって現れているものではないかと思えます。</p> <p>佐渡市役所でも毎朝、始業時に職員全員が一斉に挨拶を行っています。これは私たち職員が市民の皆様を迎え入れる気持ちを表したものであり、元気に仕事を始める第一歩ではないかと考えております。</p> <p>今後も挨拶をはじめ、親切丁寧な行動に努めてまいります。また、子どもから大人まで、市民の皆様にも実践していただきたいと思えます。</p>	渡辺市長
---	--	------

令和3年8月5日（木）午後4時閉会